

平成29年度

事業活動報告

社会福祉法人 すこやか福祉会

障害者支援施設
かたくりの里

〒953-0103

新潟県新潟市西蒲区橋本88番地1

TEL 0256-82-1811

FAX 0256-82-1815

社会福祉法人すこやか福祉会 障害者支援施設 かたくりの里は、全国身体障害者施設協議会に加盟する施設として、『障害者の権利に関する条約』の理念を遵守し、「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追及」「共に生きる社会づくり」という全身協の基本理念を実現するため、ここに倫理綱領として定めます。

全国身体障害者施設協議会 倫理綱領

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会

1. 私たちは、基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりのその人らしい生活を支援します。
2. 私たちは、日々の実践を検証し、利用者に安全、安心、快適なサービスを提供します。
3. 私たちは、自己研鑽に努め、専門的な知識と技術と価値観をもって、良質なサービスを提供します。
4. 私たちは、利用者に必要な情報をわかりやすい方法で提供し、要望にはすみやかに対応します。
5. 私たちは、広く重度の障害のある方々のためのサービスを開発し、提供します。
6. 私たちは、重度の障害のある方々をとりまく環境の改善と福祉文化の醸成に努めます。
7. 私たちは、関連機関・団体、地域住民等とともに、事業を展開します。
8. 私たちは、透明性を堅持し、健全かつ活力ある経営にあたります。

社会福祉法人 すこやか福祉会

職員行動規範

前文

私たち社会福祉法人すこやか福祉会職員は、自らの行動に責任と自覚を持ち、地域社会の一員として行動するための基本的な指針として「社会福祉法人すこやか福祉会 職員行動規範」を定め、これを職員相互で常に確認し合い遵守します。

1 社会的ルールの遵守・コンプライアンスの徹底

私たちは、強い意志の下、関係法令、法人の定めた諸規程はもとより、法人の理念や社会的ルールの遵守を徹底します。

2 個人の尊厳

私たちは自らの先入観や偏見を廃し、利用者の個性や気持ちを真摯に受け止め、誠実な態度で、利用者一人ひとりに接します。

3 人権の尊重

- (1) 私たちは、利用者の人権と人格を最大限に尊重し、個性や感性の違いを認め、全ての人が平等であるという考えの下に行動します。
- (2) 私たちは、体罰、暴言、威圧的・強制的対応、無視、差別的対応、セクシャルハラスメント、身体拘束、プライバシーの侵害など、人権侵害行為は決して行いません。
- (3) 私たちは、人権侵害行為や虐待を発見した場合は、直ちに上司に報告し、「虐待防止委員会」を速やかに開催し適切に対応します。

4 安心で安全な暮らしの保障

- (1) 私たちは、リスク管理に万全を期し、事故防止および安全の確保に努めます。
- (2) 業務上知り得た個人情報決して外部に漏らしません。退職後も同様とします。

5 自己選択・自己決定権の保障

私たちは、利用者の特性に応じた働きかけや説明を行い、可能な限り自己選択・自己決定ができるように支援します。

6 満足度の高いサービスの提供

私たちは、利用者の意思やニーズを十分に把握し、「やすらぎ」と「生きがい」のある生活が送れるようにサービスを提供します。

7 社会参加の促進

私たちは、社会資源の活用や情報提供を積極的に行い、利用者の社会参加の促進に努めます。

8 専門性の向上

- (1) 私たちは、利用者支援の専門性を高めるため、常に努力と自己研鑽に努めます。
- (2) 私たちは、各種資格の取得に努め、専門性の向上を図ります

(施行期日)

この規範は、平成26年1月1日から施行する。

平成29年度かたくりの里 事業報告

<目 次>

	ページ
1 理念・基本方針	1
2 平成29年度事業方針	1
3 障害福祉サービス事業	2
施設入所支援	3
生活介護	3
短期入所	4
指定特定相談支援事業	5
4 職員体制	6
5 生活支援課業務報告	6
生活支援係	6
入所支援係	7
地域支援係	7
療護係	9
相談支援係	14
業務委員会	14
権利擁護	14
安 全	16
生活向上	20
防 災	22
研 修	23
日中活動	25
情報管理	28
業務検討会	29
6 外部行事参加状況	30
7 補助金・助成金事業報告	31

1 理念・基本方針

法人の運営理念

私たちは、ご利用者お一人おひとりが「やすらぎ」と「生きがい」をもたれ、「やすらかで心豊かな生活」が送れるよう支援を行い、ご家族や地域の方々からも信頼される社会福祉法人をめざします。

施設の目的

障害者支援施設 かたくりの里は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他必要な施設障害福祉サービスを適切かつ効果的に行うことにより、障害者の福祉の増進を図ることを目的とする。

施設の方針

障害者が日常生活または社会生活を営むための支援は、障害の有無にかかわらず等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念に乗っ取り、すべて障害者は、個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい支援を保障される権利を有するものとする。すべて障害者は、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるものとする。利用者の尊厳、人権とプライバシーを重視した対応に心掛け、充実した人生を安全で快適な生活環境のもとで過ごせるように配慮する。また、高齢化等による2次的な障害の防止に努めると共に、地域社会との幅広い交流を通して健全な生活が営まれる開かれた施設の運営を行う。

施設の中だけで生活が完結することではなく、社会の構成員として社会参加し、障害者問題に対する地域住民からの理解と認識を深めるための啓発活動も必要である。利用者の社会生活を促進し、地域生活・在宅生活へ移行するために必要な援助や地域等との連絡調整を積極的に行う。

○利用者個人の尊厳を尊重し、適性、障害の特性その他の事情を踏まえて個別支援計画を作成します。

これに基づき利用者主体のサービスを提供するとともに、その効果について断続的な評価を実施し、利用者に対して適切かつ効果的なサービスを提供します。

○生活の場としての施設支援サービスの提供とともに、地域生活への移行を意識した社会生活力向上プログラムや積極的な社会参加を促進していくプログラム、日中活動を提供します。

○開かれた施設を目指し、地域交流スペースの活用と地域との連携を図ります。

2 平成29年度事業方針

- (1)「やすらぎと生きがい」を合い言葉に、明るく楽しい生活空間を創造する。
- (2)利用者のニーズを把握し、個別支援計画を策定し実施する。
- (3)利用者が積極的に社会参加できるよう社会生活力向上プログラムを計画し実施する。
- (4)利用者が主体的に活動できるよう自治組織と協力する。
- (5)計画相談支援の事業を行うことにより、障害福祉サービス利用者の利便性を向上させる。
- (6)利用者の苦情等に対しては、真摯に受け止め解決を図るよう努める。

■平成29年度 中期方針の振り返り

□福祉サービスの自己評価

業務検討会にて各委員会、係で身障協ケアガイドラインの自己評価チェック項目を割り振り、実施した。課題の抽出を行い、職員もPDCAサイクルを活用する意識が少しずつ芽生えてきたが、職員全体にはまだ浸透していない。来年度に向け、課題についての方向性を明確にし、更に積極的なPDCAサイクルの活用を目指したい。

福祉サービス第三者評価基準を活用した自己評価についても、計画、実施していきたい。

□職員のキャリアアップ、研修制度、多様化する障害への対応

職員のキャリアアップの取り組みとして、新人研修マニュアルを整備し、より充実した新人研修を行うことができた。また、社会福祉協議会が主催する福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅コースへ職員1名が受講した。研修内容が非常に充実していることから、来年度はキャリアパス対応生涯研修に、積極的に職員を派遣することで、職員自らがキャリアアップの道筋を描くことができるようにしたい。

引き続き多様化する障害への対応ができるよう、支援技術を磨く研修会に職員を派遣していく。

□権利擁護事業への取り組み

・虐待防止の組織作りのため

虐待防止マネージャー研修に職員を派遣した。

虐待防止委員会の組織編成を行った。

・成年後見制度利用支援

成年後見制度利用支援を行った。

職員会議にて報告し、ケース記録に残すことで全職員への周知を行った。

・従事者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施

権利擁護委員会より、毎月の職員会議にて虐待防止のための意識向上ポイントを報告した。

□防犯・防災体制の確立

防犯対策として、全職員用に防犯ブザーを購入したが、マニュアル作成や伝達講習まで至らなかったため、来年度に向け整備していきたい。また、昨年度設置した非常通報装置の取り扱い訓練を定期点検に合わせ実施した。

防災対策として、非常食マニュアルの見直しを行った。非常食の備蓄場所に関する講習会を開催し、職員へ伝達した。来年度は実際に非常食の炊き出し訓練を行いたい。

今年度は雪害・風害による、断水・停電等、火災以外の自然災害が多く発生したことから、様々な災害を想定したマニュアル整備、訓練を実施していく。

3 障害福祉サービス事業

■施設入所支援（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

定員50名(ALS居室利用者は定員内数で利用する)
障害支援区分4(50歳以上は区分3)以上が該当する。

入退所動向

退所	平成29年	8月女性	11月男性			
	平成30年	1月女性	1月男性	3月男性		合計 5名
入所	平成29年	8月女性	11月女性	12月男性		
	平成30年	2月男性	3月女性			合計 5名

平成30年3月31日現在

性別	利用者数	障害支援区分				年 齢		
		3	4	5	6	最小年齢	最高年齢	平均年齢
男性	32	1	4	6	20	35歳7ヶ月	81歳 0ヶ月	62歳8ヶ月
女性	18	0	1	4	12	26歳6ヶ月	76歳 8ヶ月	60歳6ヶ月
	50	1	7	10	32	男女平均年齢	61歳 11ヶ月	

平成29年度 施設入所支援 利用状況・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末登録者数	50	50	50	50	50	50	50	51	51	51	50	51
延べ人数	1489	1542	1488	1523	1535	1462	1502	1417	1520	1509	1395	1570
入院・外泊	11	8	12	7	16	38	48	99	61	43	1	10
稼働率(%)	99.3	99.5	99.2	98.3	99.0	97.5	96.9	94.5	98.0	97.4	99.6	101.3

3月末時点で、定員50名に対して利用者51名となっている。

平成29年度の年間稼働率は98%

平成30年3月末待機者 男性 5名 女性 5名 計 10名

■生活介護（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

定員 58名

施設入所は区分4(50歳以上は区分3)以上

地域生活(通所等)区分3(50歳以上は区分2)以上が該当する。

支給量は施設入所、地域ともに月数-8日

営業時間は8:30～17:00。土日と年末年始の送迎サービスは実施しない。

平成30年3月31日現在

平成29年度 通所 登録利用者 36名

性別	利用者数	障害程度区分					年 齢		
		2	3	4	5	6	最小年齢	最高年齢	平均年齢
男性	23	2	4	5	5	7	20歳11ヶ月	67歳0ヶ月	51歳 9ヶ月
女性	13	2	0	3	2	6	19歳	60歳11ヶ月	45歳 2ヶ月
	36	4	4	8	7	13	男女平均年齢	48歳9ヶ月	

平成29年度生活介護 利用状況・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設利用者	1089	1139	1087	1122	1138	1065	1115	1025	1126	1115	988	1159
通所利用者	241	273	255	230	245	230	231	249	203	221	196	211
延べ人数	1330	1412	1342	1352	1383	1295	1346	1274	1329	1336	1184	1370
稼働率(%)	76.4	79.6	74.6	75.2	76.9	74.4	74.9	73.2	73.9	74.3	72.9	76.2

平成29年度年間稼働率 77.8%

■短期入所（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

平成29年度利用登録者数 36名 男性 20名 女性 16名

地区	男性	女性	短期利用の理由（人）	特記事項
西蒲区	7	4	介護者の負担軽減(9) 本人希望(2)	生活介護併用(9)
西区	1	2	介護者の負担軽減(3)	
南区	3	1	介護者の負担軽減(3) 本人希望(1)	生活介護併用(2)
燕市	7	7	介護者の負担軽減(12) 本人希望(1) 虐待(1)	生活介護併用(7)
加茂市	1	0	介護者の負担軽減(1)	
三条市	0	2	介護者の負担軽減(1) 虐待(1)	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	25	28	25	24	22	23	23	20	18	21	19	22
利用日数	153	159	135	149	150	136	136	131	142	137	136	159

定員 5名 併設福祉型短期入所サービスを提供した。

平成29年度年間稼働率 90%

ほぼ半数の利用者が生活介護を併用し、短期入所と日中活動を併用する短期入所(Ⅱ)を算定。宿泊をとまなうサービス提供なので、施設入所支援係との連携が不可欠であり、入退所に伴う事務処理、荷物のチェック等、利用者に迷惑がかからないように職員間での連絡・報告を確実にする必要はある。

□国土交通省短期入所協力事業

自動車事故が原因で、重度の後遺症を持つため、日常生活動作について常時又は随時介護が必要な状態の方を受け入れる施設として、平成27年10月に指定を受けた。

指定特定相談支援事業

地域連携相談室 すこやか 平成29年度事業活動報告

(1) 相談支援事業の概要

「地域連携相談室 すこやか」の指定計画相談支援の事業を行うことにより、障害福祉サービス利用者の利便性を向上させる。」

- 指定計画相談支援
- サービス利用支援
- サービス等利用計画案及びサービス等利用計画の作成
- 継続サービス利用支援
- サービス等利用計画の見直し

<実施状況>

月	計画作成数	モニタリング数
4	3(1)	3(2)
5	0	6(2)
6	3	5(3)
7	4(1)	7(4)
8	5(1)	5(2)
9	3(2)	6(4)
10	1	9(7)
11	4(1)	7(5)
12	3(1)	4(1)
1	5(3)	1(1)
2	4(3)	4
3	8(1)	3
合計	43(14)	60(31)

() は、かたくりの里入所者数

平成29年度かたくりの里入所者

計画作成件数 14件 モニタリング件数 31件

(2) サービス等利用計画作成対象者

【人員配置】 管理者 1名
 相談支援専門員 2名(常勤専従1) (常勤兼務1)

【主たる対象とする障害】 特定しない

【営業日時】 月～金 8:30～17:15 但し、祝日、12月29日～1月3日を除く

【通常の事業実施範囲】 新潟市西蒲区 燕市 弥彦村

【他機関との連携体制】

- ・障害者支援施設かたくりの里 生活支援・入所支援係、地域支援係と連携した。
- ・西蒲区自立支援協議会への参加と共に、西蒲区障がい福祉係、新潟市障がい福祉課と連携をはかった。
- ・新潟市西蒲区の相談支援センターと連携した。
- ・新潟市障がい者基幹相談支援センターと連携した。

4 職員体制

■人員配置

職 種 等	人数
施設長	1
医師(嘱託)	1
サービス管理責任者	3
看 護	3
作業療法士	1
生活支援員	36
管理栄養士	1
事務職員	1
運転員	1
特定相談支援事業	
管理者(兼務)	1
相談支援専門員	2

※生活支援員は兼務・パートを含む人数

人員配置による報酬算定状況

施設入所支援

- ・夜勤職員配置体制加算
- ・重度障害者支援加算
- ・栄養マネジメント加算

生活介護

- ・人員配置体制加算 (1.7:1以上)
- ・福祉専門職員配置等加算 (専門職員 25名)
- ・常勤看護職員等配置加算
- ・リハビリテーション加算

短期入所

- ・栄養士配置加算

※福祉・介護職員処遇改善加算(Ⅱ)5.0%を算定

■会 議

すこやか福祉会定例会議	毎月 1回	
運営会議	毎月 第2水曜日	16:30～
業務検討会	毎月 第1火曜日	
職員会議	毎月 第3火曜日	

5 生活支援課 業務報告

■生活支援係

□個別支援計画の取り組み

【活動内容】

- ・生活支援員が利用者を担当することで役割分担を行い、計画書の作成が円滑に実施できた。
- ・カンファレンスを利用者、及び生活支援員・看護師・作業療法士・管理栄養士・相談員等、各専門職種の参加にて実施したことによって、利用者のニーズに対して多職種で支援内容を検討しケアプランに反映できた。
- ・原則として中間評価を6か月後、終了時評価を12か月後に実施。又、再アセスメントを、前回作成したアセスメントシートを基に実施したことで、利用者の思いや身体状況等の変化を情報収集しやすくなった。
- ・利用者の急な状態変化、ニーズの変化には、随時カンファレンスを開催してケアプランの再検討を行うことにより円滑に支援を実施できた。
- ・意思疎通が困難な方への同意については、家族面会時の説明や家族宛に郵送で対応した。
- ・完成したケアプラン一式は、支援計画作成会議録と共に回覧した。

・ケアプランマニュアルの更新を行った。

【反省・課題】

ケアプランの質を高めるために、アセスメントの重要性を職員に周知し、よりよいアセスメントの実施からケアプランにつなげていきたい。

■入所支援係

【活動内容】

- ・利用者がよいよい生活を送れるよう、業務検討会、生活向上委員会にて決定した改善案を実施した。
- ・入院時の病院、家族との連絡調整、利用者に必要な支援を行った。
- ・入退所時の必要な支援、調整を行った。
- ・成年後見制度利用の為の支援を行った。

【反省・課題】

今年度は入所者の入退所が非常に多かった。入所者の重度化、高齢化により介助量は年々増えてきている。よりよい生活を送れるよう介助の見直しを行うとともに、新人職員の育成にも力を入れていきたい。

■地域支援係

□生活介護(通所)

今年度新規受け入れ者数 6名

【活動内容】

- ・相談、利用調整
- ・送迎の実施
(実施区域 新潟市西蒲区、燕市、弥彦村)
- ・食事、入浴、排泄等の介護や日常生活上の支援
- ・日中活動の提供
- ・個別支援計画の作成

日 課

- 9:00～ 送迎
- 10:00～ 施設到着・バイタルチェック・お茶
- 10:15～ 入浴・リハビリ
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ 入浴・リハビリ
- 13:45～ 日中活動
- 15:00～ 送迎

□短期入所事業

今年度新規受け入れ 2名

【活動内容】

- ・相談、利用調整
- ・送迎の実施
- ・入退所時の受け入れ

- ・他のサービス機関との連携
- ・ケース会議への参加
- ・西蒲区障がい者地域自立支援協議会への参加(年4回)
- ・特別支援学校実習生の受け入れ

【反省・課題】

(通所事業)

- ・ヒヤリハットが数件あったので、再発防止に努める。
- ・在宅酸素を使用している方や経管栄養の方も、看護師や認定特定行為業務従事者の協力により、受け入れることができた。
- ・インフルエンザが発生したが、通所と短期入所の利用者に連絡等を蜜に行うことで感染を防ぐことができた。しかし、その影響より稼働率が減少基調となった。
- ・ゆっくり利用者と娯楽等で楽しむ機会を作れるよう検討したい。
- ・食前や帰宅時間直前に、介助が重なることで慌ただしくなってしまうので、効率良くできるよう他職員と連携する。
- ・強風により施設で長時間の停電があったが、初めてのこともあり戸惑う点があった。新たに見えた課題もあったため改善につなげていく。
- ・職員が統一した介助方法を行えるよう、すり合わせを行いたい。

(短期入所事業)

- ・緊急の短期入所の依頼があったが、入所支援係、生活支援係の協力により多くの依頼を受けることができた。
- ・短期入所者の体調不良時の対応マニュアルを作成した。今後は、個別の緊急時対応シートを作成したい。

機能訓練

【活動内容】

1. リハビリテーションマネジメントの実施

- ・1日25名程度のリハビリテーション実施計画書に基づいた個別訓練を実施した。
- ・機能訓練室やベッド上での個別リハビリや自主訓練を行うことで、機能の維持・回復に努めた。
- ・その他、ビーズ手芸や編み物などの手作業を中心とした作業活動を提供し、作品を仕上げていくことで達成感を得つつ楽しく充実した1日になるよう工夫した。

2. 歩行補助具(車椅子や歩行器など)や日常生活用具(ストマなど)の申請・メンテナンス

- ・各利用者の身体機能に合った車椅子や歩行器を紹介することで、移動を快適に、かつスムーズに行うことが出来るようアプローチした。
- ・日常生活上で感じる不自由さの相談を受け、適切な福祉用具などの選定にあたった。

【反省と課題】

訓練時の事故は無く、終わることができた。利用者の身体機能の低下は最小限に抑えられた。新規利用者も増え、介助量も増えてきている中で、支援員の協力が重要になってくるが、多くの協力のもと、トラブルもなくてよかった。

機能訓練と並行して行っている作業活動は、無理なく、自分のペースで行えるように支援した。利用者のペースでできる作業を提供した事で安定した参加を促すことができた。

今後も、身体機能維持と共に、生活の質の向上をめざし、様々な活動を提案、提供し、多くの方が安心して参加できる環境作りを心がけたい。

■療護係

□看護

【活動内容】

1. 利用者の健康管理
 - ・朝の申し送りから情報を得て、利用者の体調のチェックを行った。
 - ・利用者の体重、体温、血圧測定を月1回行った。
 - ・必要に応じて臨時に受診した。
2. 利用者の医療処置
 - ・排便チェック表に添って排便状態を把握し、必要に応じて浣腸、坐薬等で排便の介助を行なった。
 - ・膀胱洗浄、留置カテーテル交換、褥創処置、軟膏処置、包交、点眼、点耳、点鼻、爪切り、経管栄養滴下、注入、痰吸引等を行った。
 - ・使用した医療物品の消毒、高圧滅菌等を行った。
 - ・医療廃棄物を管理し、処理の依頼をした。
3. 利用者の通院介助
 - ・通院の送迎を支援した。
 - ・主治医への状態報告、主治医からの指示を受け次回の予約確認をした。
 - ・調剤薬局へ処方箋を送り、薬の受け取りをした。
 - ・個人のカルテに受診内容の記録を行い、必要事項はケース記録等でスタッフに伝達した。
 - ・医務室の受診予定表に次回の予約を記入した。
4. 利用者の服薬の管理
 - ・主治医から処方された薬を医務室で保管した。
 - ・内服薬は個人別に投薬車で管理した。
 - ・利用者の1日分の内服薬の準備を行なった。朝、昼、夕、眠前それぞれのトレーに薬を用意した。
 - ・誤薬を防ぐために、薬を用意した人がチェック表にサインをした。別の職員(看護師か生活支援員)が薬の再確認しサインを行なった。
 - ・昼の薬は看護師が、朝、夕、眠前の薬は介護職員が責任をもって利用者に投薬した。
5. 嘱託医診療の支援
 - ・大西洋司先生に月2回往診時、診察の介助を行なった。
 - ・利用者の体調管理に関する相談をし、容体が悪化した場合紹介状をいただき他科受診を行った。
 - ・利用者の入退院があったときは報告した。
 - ・インフルエンザ予防接種の準備と接種の介助をした。
 - ・大西先生が主治医になっている利用者の定期処方を毎週1回行なった。
現在処方してもらっている45人の利用者を四つのグループにわけ、毎週月曜日にファックスを送り、翌週の水曜日に薬を受け取りに行った。
 - ・肺炎球菌予防接種の準備と接種の介助を4名行った。
6. 安藤医院(泌尿器科)の往診介助
 - ・月2回、水曜日の午後往診していただき19人の方の主治医になっていただいた。12人の方のフォーレ交換と17人の方の薬の処方を依頼した。
 - ・往診1週間前に個人の定期薬をファックスで依頼した。
 - ・フォーレカテーテルの交換、膀胱洗浄の介助を行った。
 - ・月始めの診療時に往診費と利用者の請求額を集金し支払いを行なった。

7. 利用者の入退院の準備および介助
- ・看護情報を作成し入院時用意した。
 - ・病院に持っていく薬等の準備をし、介護スタッフに衣類等の入院準備を依頼した。
 - ・入院中は、支援員とともに病院との連絡を行った。
 - ・退院が決まったときは病院の担当看護師より必要な情報を受け取った。

8. 利用者の体重測定、検温、血圧測定を月1回行った。

9. 年間保健衛生計画の実施

- ・インフルエンザ予防接種

施行日:平成29年 11月

接種人数:利用者50名 職員48名

- ・健康診断 年2回

1回目実施日:平成29年8月31日(木) 午後13時30分～16時00分

健診項目:検尿、採血、心電図、血圧測定、診察

参加人数:50名

2回目実施日:平成30年2月22日(木)午後13時30分～16時00分

健診項目:検尿、採血、心電図、血圧測定、診察

参加人数:50名

胸部レントゲン撮影:23名

10. スタッフ研修の実施

- ・バイタル測定等の説明。
- ・新人職員へのオリエンテーション。
- ・ノロウイルス講習
- ・スキンケア講習
- ・鼻腔口腔吸引、経管栄養の滴下、半固形注入の研修と評価

11. その他

処置に使用する薬剤、医療材料、物品等の購入及び管理。

【反省・課題】

- ・経管栄養を行う利用者が4名になった。
- ・大西先生に利用者の症状によっては他の医療機関への紹介状を書いていただき、スムーズに受診をすることができた。
- ・利用者の健康診断が昨年同様に行えた。
- ・今年度インフルエンザにかかった利用者、職員は12名。感染性胃腸炎にかかった職員、利用者とも感染は見られなかった。
- ・利用者によっては、入院や手術などが数例あった。

入院状況一覧(平成29年4月～平成30年3月)

	入院治療	
	人数	期間(日数)
内科	4	180
神経内科	4	46
呼吸器内科	1	39

病院別受診状況(平成29年4月～平成30年3月)

病院名	受診件数
岩室リハビリ病院	252
大西医院	255
ひらさわ歯科	177
県立吉田病院	58

皮膚泌尿器	2	11
合 計	11	276

西蒲メディカル病院	50
安藤医院	58
金子整形外科	37
佐潟荘	36
渡辺耳鼻科	34
設楽皮膚科	18
大島病院	14
後藤内科クリニック	14
新潟大学付属病院	8
坂井眼科	7
さくらざわ眼科	6
おおくら耳鼻科	4
燕労災病院	4
もたにメディカルクリニック	3
西新潟中央病院	3
信楽園病院	2
三条済生会病院	2
※その他	4
計 25カ所	1047

※ その他	件数
新潟医療センター病院	1
金子内科医院	1
済生会第2病院	1
国立病院機構新潟病院	1
計	4

■ 栄 養

【活動内容】

1. 栄養ケアマネジメントの実施

利用者全員に対して栄養ケアマネジメントを実施した。

毎月の体重測定の結果や褥瘡の有無などのスクリーニングからみえる健康リスクをかかえた利用者の割合は、月平均で21.1%であった。今年は、入退所が多く同一人物で比べてはいないが、前年より若干改善している。また、2月の健康診断の結果では、アルブミン値が低値の利用者の割合が64.0%、であり、こちらも改善している。

個人でみた時、るい瘦や肥満、食事量の不安定さ、アルブミン値の低値の利用者の顔ぶれは、ほぼ同じである。

2. 歯科医師と連携を図り、利用者個々に適切な口腔ケアを提供する

定期的によりハビリテーション病院へ受診し、口腔ケアを行っている利用者、移動が難しい為、歯科往診にて口腔ケアを行っている利用者とは様々である。受診頻度は少なくとも、定期的に診てもらうことで口腔内のトラブルを回避できていると感じる。

3. 健康コラムを定期的作成する

今年度は、「かたくり通信」全てに掲載は行わず、2回の掲載となった。

4. 利用者一人ひとりのADL、嚥下や口腔、嗜好などを把握し、食形態を決定する

栄養ケアマネジメントを実施する中で、上記項目を実施している。

今年度から「水ゼリー」の提供を開始した。嚥下困難な利用者の水分提供に利用する。

10月から厨房から提供しているお茶を煎茶から麦茶に変更した。薬との相性などを考慮して

5. 安全かつ衛生的に食事の提供を行う

異物混入件数は、4件あった。異物の内容は、毛や糸状のビニール片

6. 利用者の嗜好が配慮された献立または季節を感じる献立の作成

今年度実施した行事食

月	行事	献立
4月	施設開所日(1日)	赤飯
	花見らしい献立(10日)	桜ご飯、若竹汁、卵の五目焼、かき和えなます、桜ようかん
	昭和の日(29日)	ハムカツ、エビフライ、けんちん汁、錦糸和え、水ようかん
5月	端午の節句(5日)	太巻き、いなり
6月	夏至(20日)	アイス
	魚の日(28日)	<選択メニュー> 鮎の塩焼きとトラウトの塩焼き
7月	七夕(7日)	ちらし寿司、そうめん汁、信田煮、メロン
	海の日(17日)	冷やしうどん、海老入りかき揚げ、南瓜天
	土用の丑の日(19日)	うな重
8月	山の日(11日)	BBQ
	お盆(15日)	白身魚フライと海老フライ、金平ごぼう、ところてん
9月	重陽の節句(9日)	菊ご飯、味噌汁、さんまの塩焼き、かき和えなます、抹茶寒天
	敬老の日(18日)	栗ご飯、すまし汁、鱈の香焼き、じゃが芋の梅風味和、ミニケーキ
	秋分の日(23日)	鮭わかめご飯、おはぎ、すまし汁、いり鶏、春雨の中華風酢の物
10月	十五夜(4日)	さつま芋ご飯、豚汁、五目卵焼き、野菜サラダ、いちごミルクプリン
	体育の日(10日)	青菜ご飯、味噌汁、赤魚の洋風煮付、おさつサラダ、キウイ&パイン缶
	ラーメン屋台(19日)	ラーメン屋台(とんこつ味、醤油味)
11月	文化の日(3日)	栗ご飯、味噌汁、豚肉の味噌焼き、白菜ときのこのさつと煮 リンゴコンポート
	寿司屋台(7日)	生寿司など
	勤労感謝の日(23日)	赤飯、トラウトの塩焼き、南瓜のそぼろ煮、カクテル缶
12月	冬至(22日)	南瓜料理
	クリスマス(25日)	<クリスマス選択メニュー> 鶏肉のもも足と鶏の唐揚げ、ケーキ
	大晦日(31日)	<大晦日メニュー> 年越しそば、おせち盛り合わせ
1月	正月(1日)	おせち料理 赤飯
	魚の日(3日)	海鮮丼
	七草(7日)	七草粥
	鏡開き(11日)	(餅つき行事と重なった)
	小正月(15日)	五目いなり寿司
2月	すし屋台(1日)	生寿司
	節分(3日)	豆菓子
	バレンタインデー(14日)	ミニケーキ
	鍋の日(21日~23日)	21日 すき焼、22日 棚田鍋、23日 水炊き から1つ選択
3月	桃の節句(3日)	ちらし寿司
	すし屋台(16日)	生寿司
	春分の日(21日)	おはぎ

鍋の日(26日～28日)	26日 白湯スープの煮込みラーメン鍋 27日 海鮮味噌煮込みうどん鍋、28日 すき焼 から1つ選択
--------------	--

利用者が期待していたデザート(柏餅)が発注ミスで提供できなかった。

野菜の高騰で、鍋料理に入れる具材に苦慮した。

鍋料理にインスタントラーメンを入れた。非常に好評であった。

7. 給食会議の実施

毎月第3木曜日、14時から実施。

内容:利用者の要望や意見、調理や献立についての要望、行事食についてなど

利用者の声には可能な範囲で応えるように努めた。

8. 嗜好調査

①パンの提供に関する調査

期 間:5月12日～17日に実施した。

対 象 者:入所37名

回答者数:31名

回 答 率:83.8%

調査方法:聞き取り

内 容:①食べにくいパンについて ②食べたいパンについて

②食事全般に関する調査

期 間:9月6日～13日に実施した。

対 象 者:入所50名 通所・短期利用者32名(実施期間中に利用された利用者)

回答者数:入所29名 通所・短期利用者23名

回 答 率:入所58.0% 通所・短期利用者71.9%

調査方法:聞き取り

内 容:①食事全体について(色合い、盛り付け、温度、味) ②料理について(味、匂い、硬さ)③要望・意見

嗜好調査でいただいた要望、特に、食べたいものについては、順々に献立に取り入れていった。

9. 健康教室

管理栄養士の担当月は、6月、10月であった。

内容: 6月28日 身近に潜む食中毒の原因(参加利用者14名)

10月25日 冬の「かくれ脱水」に注意!(参加利用者6名)

【反省と課題】

今年度は、温冷配膳車を1台購入したので大切に使用していきたい。

利用者の高齢化に伴い、一人ひとりの嚥下レベルやADLIに合った食事の提供も、常食から軟菜や刻み食に変更になったり、水にトロミをつけたり、又は水ゼリーにしてみたりと多岐にわたっている。さらに、栄養状態の悪い利用者には、栄養強化の為に栄養剤を提供している。給食委託会社には、細かい対応をしていただいているが、利用者の栄養状態を良好に保つ為にも美味しい食事を経口で摂取することは重要である為、今後もコミュニケーションを密にして、食事を変化させていきたいと思う。

来年度も引き続き、いつまでも、経口摂取が可能であるように口腔ケアの継続、必要に応じて口腔体操の実施、食べやすい食事の提供に力を入れていきたいと考えている。

■相談支援係

- ・サービス等利用計画案及びサービス等利用計画の作成
- ・継続サービス利用支援の作成
- ・サービス利用調整
- ・かたくりの里生活支援係・入所支援係、地域支援係と連携
- ・医療機関や居宅介護事業所・福祉施設等との連携、サービス担当者会議の開催
- ・西蒲区自立支援協議会、西蒲区ケース検討会、西蒲区障がい者生活支援会議への参加
- ・西蒲区健康福祉課障がい福祉係、新潟市障がい福祉課と連携
- ・新潟市障がい者基幹相談支援センター、市内相談支援事業所、新潟市地域包括支援センターと連携
- ・新潟市計画相談支援研究会への参加

【反省・課題】

- ・特定の利用者への対応時間が長くなってしまい、他の方のモニタリングが遅れてしまう事があった。
- ・計画を作成する上で、障がい特性に関する知識の必要性を感じた。
- ・障がい福祉サービスを含むさまざまな制度に関する知識不足を実感した。
- ・平成30年度の報酬改定に伴い、施設入所されている方のモニタリング期間の見直しがあり、1年間から6月間に変更された。順次適用されるようだが、出来るだけ対応していきたい。

業務委員会

■職員の業務分担としての委員会活動報告

□権利擁護

平成29年度中期方針に基づき、虐待防止及び対応の体制作りをすすめた。

1. 苦情・要望

	内容	件数
5月	施設に対して	1件
6月	施設に対して 他利用者に対して	1件 1件
8月	施設に対して	1件
9月	介助方法や支援内容に対して	1件
1月	施設に対して	1件
計	年間苦情・要望件数	6件

年間苦情・要望総数 6件

毎月の職員会議において、苦情・要望内容の報告を実施した。

苦情・要望内容と1ヶ月後の評価を、毎月第三者委員へ報告を行った。

2. 虐待防止対策

①虐待の防止に関する組織作り

虐待防止マネージャー研修へ職員を派遣した。

虐待防止委員会を組織編成を行った。

②身体拘束等の廃止に向けた取り組み

毎月の職員会議において、身体拘束等に関する報告を実施した。

個別支援計画に組み込み、定期的に解除方法の検討を行った。
 今年度の身体拘束解除状況・・・入所者1名の身体拘束を介助した。

③虐待のチェックリスト

業務の振り返りチェックシートの実施・・・2月

3. 権利擁護対策

①権利擁護に関する啓発活動

意識向上ポイント（毎月の職員会議にて報告）

4月	かたくりの里 倫理綱領を把握する
5月	すこやか福祉会 職員行動規範を把握する
6月	「虐待」及び「不適切なケア」の考え方について
7月	整理整頓について
8月	障害者虐待（性的虐待）について
9月	障害者虐待（心理的虐待）について
10月	障害者虐待（ネグレクト）について
11月	障害者施設を利用された経験者からの意見報告
12月	接遇について
1月	個人情報の取り扱い
2月	障害者差別について
3月	虐待防止チェックリスト・業務の振り返りの集計結果と感想報告

②ストレスチェックの実施・・・11月

③メンタルケア活動・・・6月 食事会、10月 ボーリング大会

④権利擁護 強化月間の取り組み

8月・・・整理・整頓の強化月間

2月・・・虐待のチェックリスト・業務の振り返りチェックシート実施

⑤成年後見制度利用支援

- ・本人申立てでの成年後見制度利用支援を1件行い、成年後見人が就任した。
その旨を職員会議にて報告し、ケース記録に残すことで全職員への周知を行った。
- ・施設として成年後見人との連携を図り、また利用者ご本人の意志確認の為、月1回以上の面談の同席や電話連絡を行った。利用者に特変があった場合は早急に連絡を行い、情報の共有を行った。
- ・金銭に関して月1回、出納帳の確認を成年後見人と行い、金銭の出し入れが適正に行われているか確認を行った。

【反省・課題】

- ・継続して啓発活動を実施しないと、職員への意識付けができないため、来年度も引き続き啓発活動を実施していくが、周知してもらうためにはどうしたらよいかを検討していく必要がある。
- ・今年度は2回メンタルケア活動を実施し、昨年度より参加者の人数も増え「楽しかった、また開催してほしい」との声も聞かれている。
- ・虐待防止委員会の組織図を完成することが出来た。
- ・苦情要望の一連の流れをほのぼので入力することで、全員が早く確認でき周知できるようになった。入力の手順が慣れず苦情が出た際に手間取っていた。

□安全

【活動内容】

1. 褥瘡対策検討

入浴時、排泄介助時等に身体の観察を行い、異常発見時は看護師の確認後に褥瘡診療計画を作成した。支援員(介助方法)管理栄養士(栄養強化の有無)NS(処置方法)OT(移乗、座位、臥位)について検討し周知した。

年間を通じて3名の利用者に褥瘡が認められた。

- ・発生から1か月で完治した。0名
- ・良化と悪化を繰り返している。3名
- ・現在完治しており、常に予防に努めている。1名

【反省・課題】

職員間の連携により、発見から完治に向けた褥瘡診療計画は速やかに作成されており、それに基づいて対応をすることによって、ほとんどの方は短期間で完治することができた。しかし、なかには同様の場所に何度も褥瘡ができてしまう方がおられるため、今後は、予防に努めるとともに褥瘡ができる根本的な原因を探っていかなければならない。

2. 特定行為について

事業者登録申請を行い、事業を開始し、現在は介護福祉士認定特定行為従事者により、研修を終了した2名の利用者に対しての特定行為を行っている。利用者のレベル低下に伴い、胃瘻造設者及び喀痰吸引を必要とされる利用者も増えてきているため、今後は特定行為の対象者全員に対応できる体制を整えていきたい。

3. 事故報告集計

発生件数 3件

1、車椅子転落事故 男性 37歳

【内容】他利用者より居室で倒れていると報告をうけ駆けつけると、床にうつ伏せ状態で倒れ頭部からは多量に出血している状態で発見する。声掛けに対し反応あり、介護職員が止血処置を行い、救急搬送される。病院にて頭部CTを施行し問題なし。左眉に5cmの切創あり、傷の縫合処置を行い帰園される。

【対策】ご自身で胸ベルトを外し、NSコールを押そうとしたところバランスを崩し転落された。今後、職員が来るまでは胸ベルトを外さないをお願いをする。

【経過】現在左眉の傷も消え、本人も職員が来るまで胸ベルトを外さずに待っている。進行性の疾患の為、今後のご本人のADL等の変化に十分に注意し支援にあたる。

2、誤薬事故 男性 59歳

【内容】朝食後介護職員が服薬介助を行った。服薬後に薬袋の利用者名が他利用者のものであることに気づく。看護職員へ報告し、バイタル測定行う。服薬直後の本人の体調は特変なし。

【対策】服薬する際は必ず声を出して名前、顔、朝昼夕を確認する事を周知徹底し、確認作業の練習を実施する。

【経過】その後体調にお変わりなく過ごされている。確認作業の練習を実施する。

3、車椅子転落事故 男性 68歳

【内容】朝食後、介護職員が居室誘導し、少し時間が経過してから臥床しようと一旦退室した。そ

の後、居室より呼ぶ声が聞こえ、介護職員が訪室すると、車椅子より転落し、床にうつ伏せ状態で倒れている所を発見する。左眉の上に4cmの裂傷あり、出血している状態であった。看護師より止血処置してもらい、整形外科へ受診する。傷の縫合処置を行い帰園される。翌日頭部レントゲン撮影するが異常なし。

【対策】居室誘導した際は、必ず臥床介助を行ってから退室すること。車椅子移乗中は、職員が見守ることができる空間で過ごして頂く。

【経過】現在施設を退所されている。

4. ヒヤリハットレポート集計

発生件数 90件

〈発生場所〉

場所	居室	食堂	浴室	トイレ	リハ	デイ	その他
件数	37	15	9	10	3	4	10

〈形態〉

形態	転倒	転落	誤嚥	誤薬	管抜去	離設	その他
件数	22	23	3	14	1	1	23

〈要因〉

要因	確認不足	技量不足	状態把握不足	環境整備不足	利用者不注意	その他
件数	21	5	19	13	17	13

【反省・課題】

車イスから転落し、傷を縫合する事例が2件、誤薬が1件の計3件の事故があった。ADLの変化に気を配り対応する事が求められる。

ヒヤリハットは昨年と比べて発生件数が約30件減った。ただ同じ利用者の転倒、転落が見られる事から、前回の対策が生かされてない事も原因の1つと考えられる。また、服薬、配薬ミスも多かった。薬は命に関わる事なのでダブルチェック、声出し確認を徹底して行かなければならない。他職種と連携を図り再発防止に努めたい。

5. 感染症対策

・県が報告している「感染症週報」を毎週確認し、インフルエンザ等の流行期には、職員に手洗い、手指消毒の徹底を呼びかけた。

・手指消毒を強化する目的で、業務中は個々に手指消毒液を携行することにした。

①ノロウイルス食中毒対策

・施設内の消毒は、年間を通して、スーパー次亜水を使用した。

・汚物処理キット(汚物処理に必要なグッズが一式入った箱)、泡洗浄ハイター1000を購入し、全福祉車両、施設内(1Fに1ヶ所、2Fに2ヶ所)に配置した。

・外部講師を招いての施設内研修を2回実施し、汚物処理キットと泡洗浄ハイター1000を用いた汚物処理方法を学んだ。

・今年度も施設内でノロウイルス食中毒、その他の食中毒の発生を防ぐことができた。

②インフルエンザ対策

・平成29年12月に職員がインフルエンザAを発症し、次々と利用者や職員に感染し、総患者数は

9人になった。全員、重症化せず快方し、終息した。

〈対応〉

患者が6名になったところで保健所に報告。保健所の指導内容を基に施設内での感染拡大防止に努めた。

・平成30年1月に職員3名がインフルエンザBを発症した。利用者への感染はなく終息した。

〈対応〉

前月と同様の対応をとった。

【反省・課題】

今年度は、施設内でインフルエンザの流行があった。12月の流行は、職員の発症がきっかけだった。その職員は、家族から感染していたので、自分が発症していなくても家族に感染者がいる場合の施設への報告、通常以上に手洗い、手指消毒の強化、マスクの着用を心がけることが必要と感じた。

職員から利用者へ感染しない為に「1ケア、1手洗い・消毒」を職員に呼びかけ、徹底する為に手指消毒液を個々で携行することにした。

まだまだ感染症予防の点で、抜けている部分があると思うので、次年度も改善すべきところは対応し、インフルエンザ等の感染拡大の予防に努める。

6. 備品・環境整備

①備品

【活動内容】

- ・消耗品の発注と管理、購入手配
- ・介護用品の管理、発注(オムツは除く)
- ・故障、破損物など修理依頼
- ・備品倉庫管理
- ・備品管理簿、備品貸出表の管理
- ・衣類紛失チェック表の管理

②環境整備

【業務内容】

- ・利用者の日常生活における環境整備、向上、職員業務の円滑さを目的とし、施設内環境整備、週間清掃、洗濯室掃除等の業務を遂行する

年間活動

4/9、10	廊下、居室のワックス清掃
4/17	サッシ、網戸清掃
5/24～6/2	ベッドパッド、枕、布団交換 (冬→夏)
6/1～30	衣替え
6/12	エアコンフィルター及び換気扇パネル清掃
8/1～31	夏季大清掃
8/6、7	廊下ワックス清掃、
10/1～31	衣替え
10/13	サッシ・網戸清掃
10/18～27	ベッドパッド、枕、布団交換 (夏→冬)
12/1～31	冬季大清掃
12/10、11	廊下ワックス清掃(インフルエンザ流行につき居室は中止となる)

1/31	エアコンフィルター清掃
3/8	フロンガス漏えい点検
3/1～31	備品管理簿チェック

夏季期間除いて…廊下、食堂の空気清浄加湿器フィルター清掃

【反省・課題】

利用者の居室に貸し出しているファンヒーターや食堂の空気清浄器等のメンテナンスが時間的に余裕がなく滞る事が多かった。

・委員会としての大まかな業務をこなす事で手一杯で、施設内のこまかい環境の整備(例えば棚や収納ケース、必要備品等)まで気付かない点が多々あった。

③点検・修理

【活動内容】

- ・エアコン室外機点検を10月・11月に実施
- ・電気昇温貯湯槽点検・雨水濾過装置点検を4月に実施
- ・エレベーター点検を3か月ごとに実施(その他の月はリモート点検を実施)
- ・電気設備点検を隔月で実施
- ・浴槽レジオネラ検査を12月に実施
- ・施設内を巡視し給湯・雑用水・エアコン設備等の運転状況確認、節電の実施
- ・備品、設備等の破損物修理をその都度実施

修理依頼内訳(平成29年4月から平成30年3月)

修理箇所	件数	修理箇所	件数
洗濯機、乾燥機	8	デイサービス浴室蛇口	1
エアコン関係	7	居室洗面台配管	1
PHS	4	電動ベッド	1
呼気コール	3	消火器格納箱	1
療護浴室ストレッチャー	3	居室鍵	1
ナースコール	3	1F廊下床材	1
流し台 水栓	2	トランスリフター	1
福祉車両	1	療護浴室リフト	1
機械室配管電動弁	1	療護浴室電話機	1
厨房業務用冷蔵庫	1	療護浴室照明	1
厨房流し台	1	喫煙所	1
サーバー	1	トイレウォシュレット	1

【反省・課題】

年間の修理依頼をまとめると、洗濯機・乾燥機関係が8件で28年度より1件増加し、最も多くなっている。地域交流スペース、機能回復訓練室、療護浴室系統のKHP3系統でEHP設備への入れ替えを実施(これにより全12系統のうち6系統でEHP設備への入替を完了)。また、KHP1(事務室系統)、2(デイサービス系統)、9・10・11・12(廊下系統)など6系統が故障の頻度が高いため、30年度にEHPへの入替が必要となる可能性がある。このほか、療護浴室ストレッチャーが3件、PHSが4件呼気コール・ナースコール関係が3件となっており、流し台が2件で続いている。

施設開設当初から14年余が経過して、エアコン設備に加え、ナースコール・電話設備でも修理部品

の調達が課題になりつつある。様々な修理依頼がある中、利用者にご迷惑をおかけしないよう対応していきたい。

7. 腰痛予防対策

①職員の介護負担に関するアンケートを実施した。(H29年6月)

②腰痛予防のための施設内研修を実施した。

参考:職場で簡単にできるストレッチング(厚生労働省HPより)

③腰痛予防の意識向上のため、職場で簡単にできるストレッチング(厚労省HPより)を印刷し、更衣室等に掲示した。

【反省・課題】

今年度は講習を行ったが、継続して活動はできなかった。

アンケートの実施により介護職員のほとんどが腰痛等の体の痛みをかかえていることがわかったが、予防策に対する関心が低いこともわかった。ストレッチや準備運動の大切さを伝え、職員の皆さんが習慣化できるようにしていきたい。

□生活向上

1. 入浴

【活動内容】

- ・入浴日程表の更新、見直し
- ・入浴日、入浴時間の変更、検討
- ・入浴チェック表の作成
- ・物品の管理
- ・浴室環境整備
- ・マニュアルの更新

【反省・課題】

・利用者の入浴日、時間の変更、日勤職員の入浴介助時間を変更し対応した。職員に入浴介助に関するアンケートを取り、来年度の介助方法に反映し取り組みたい。

2. 排泄

【活動内容】

- ・オムツ交換時間の見直し、変更
- ・排泄チェック表の作成
- ・オムツ・パットの管理
- ・毎週のオムツ・パットの発注
- ・使用オムツの見直し

【反省・課題】

・オムツ交換の時間を見直すことによって、他の業務もスムーズに行えるようになった。ぴったりイン800のパットを新たに導入した。主に、水様便が出る利用者を使用することにより、便漏れが減少した。オムツの無駄遣いをなくす取り組みにも力を入れていきたい。

3. 食事

【活動内容】

- ・食席の見直し、変更
- ・職員の人員配置の変更
- ・テーブルの見直し、環境整備
- ・居室配膳方法の変更
- ・月一回給食会議への出席
参加利用者の出席を促す
利用者から出た食事に関する意見の収集
- ・2月、3月に行われた鍋料理の食席の決定
- ・食席や食事に関する苦情、要望にその都度対応した。

【反省・課題】

- ・食事介助の人員の確保の為、食席の変更や環境を整え人員を配置した。
今後も利用者、職員の意見をもとに、食席の変更等より良い食事環境の変更を行っていきたい。

4. 整容

【活動内容】

- ・マニュアルの更新
- ・顔拭きタオル利用者のチェック表作成・管理(髭剃りを含む)
- ・理容室利用者の調整(月2回)
- ・美容室利用者の調整、美容室との連絡調整(A社・・・月1回、B社・・・2ヶ月1回、C社・・・月1回)
- ・整容に関わる備品の整備
- ・口腔清掃の介助を行っている方のチェック表作成、管理
- ・口腔ケア用品の発注、管理
- ・歯とお口の治療管理表の伝達、管理
- ・歯磨き時の注意事項がある利用者は居室に「歯磨きの注意点」の図の掲示
- ・訪問歯科の訪問日の調整(管理栄養士)

【反省・課題】

- ・理美容を利用される方も増加傾向であるため、各係と連携しスムーズに支援したい。
- ・歯科往診時、スムーズに行えるよう取り組みたい。

5. 購買、買い物サービス

①購買

- ・毎週月曜(むつみ屋)、火曜日(リハビリ病院売店)に購入希望のFAXを送り、水曜日(むつみ屋)、土曜日(リハビリ病院売店)に品物を受け取る際に、支払等の援助を行った。
- ・カワチャ様より施設に来て頂き、衣料品販売を行った。

②買い物サービス

- ・イオンの宅配サービスを利用
毎週水曜日に注文し、金曜日に品物が届く。

【反省・課題】

- ・日用雑貨から嗜好品までほぼ購入出来ており、問題なく行えている。
- ・イオンの宅配サービスを新たに開始し、利用者にも徐々に浸透してきている。
- ・衣料品に関しては昨年度の反省から、金額が高いとの意見が多く、手頃な値段のカワチャ様に来ていただき、利用者も喜ばれていた。

6. 移乗動作

【活動内容】

- ・スライディングシートを活用した安全・安楽な移乗方法の講習会の実施。
- ・スタンディングリフト講習会の実施。
- ・居室設置型リフトの導入(2部屋設置完了。)
- ・療護浴室のリフトの入れ替え

【反省・課題】

- ・今後はリフト移乗に最適のスリングの選定もしていきたい。
- ・トイレ移乗時の福祉用具を利用した安全・安楽な移乗方法を考えていきたい。

□防 災

平成29年度中期方針に基づき、防犯・防災体制の確立に向けて取り組んだ。

【活動内容】

日付	実施内容	備考
4月	春期夜間想定避難訓練の打ち合わせ、説明	
5月15日	備品ポータブル電源点検	参加者3名
5月16日	春期夜間想定避難訓練 春期避難訓練の反省と火災防火設備の説明(火災報知器、 消火栓、防火扉等)、非常通報装置点検(業者)	
5月18日	非常通報装置取扱い説明	参加者8名
7月21日	非常通報装置点検(業者)、非常通報装置取扱い説明	参加者3名
9月	秋期総合避難訓練の打ち合わせ、説明	
9月12日	緊急連絡網訓練(メール)	
10月17日	秋期総合避難訓練	参加者11名
11月1日	備品ポータブル電源点検	
11月10日	防火対象物の自主点検(排煙装置)	
1月18日	非常通報装置点検(業者)、非常通報装置取扱い説明	
1月30日	緊急連絡網訓練(電話)	20時スタート
2月20日	洪水時の避難確保訓練	参加者13名

【反省・課題】

- ・今年度は、断水・停電等が発生し、マニュアルが整備されていなかった為、その都度の対応になってしまった。その為、早急にマニュアルの検討をしていきたい。
- ・全職員用に防犯ブザーを購入したが、マニュアルの作成や伝達講習まで至らなかったため、来年度に向け整備したい。
- ・昨年度設置した非常通報装置の取扱い訓練を定期点検に合わせて実施した。
- ・今後、避難訓練時などに合わせ、非常食の炊き出し訓練を行いたい。
- ・年間予定通りに実施できなかった内容もあり、前月に翌月の予定の確認をしっかり行う。

口 研 修

1. 研修

平成29年度中期方針に基づき、職員のキャリアアップ、研修制度、多様化する障害への対応への取り組みを行った。

【活動内容】

- ・研修マニュアルの管理
- ・施設内研修・法人内研修について開催の調整
- ・施設外研修への派遣、手続き
- ・新人研修について調整

①施設外研修

日付	研修・会議内容	場 所	出席者
5月17日	人材教育体制セミナー	新潟テルサ	増田
5月22日	人材育成・定着セミナー	新潟ユニゾンプラザ	増田
6月6日	福祉施設の防犯体制強化対策	新潟市東区プラザ	増田、亀山
6月7日	「高齢期の暮らしを考える」研修会	朱鷺メッセ	増田
6月10日	福祉の就職総合フェア2017	朱鷺メッセ	増田
6月10日	新潟県相談支援専門員協会研修	燕三条地場産センター	星野、相浦
6月13・14日	関ブロ身障協第1回総会・施設長会議 関ブロ職員支援力アップ勉強会	オークラフロンティアホテルつくば	増田、高橋(達)
6月15・16日	社会福祉施設新任職員研修	燕三条地場産センター	番場
6月16日	危険物取扱者保安講習	新潟テルサ	佐藤
6月20日	苦情受付能力向上委員会	ハイブ長岡	海津
6月21日	社会福祉会計簿記講座(初級)	新潟ユニゾンプラザ	田村
6月23日	県身協第1回総会施設長・庶務担当課長会議	ニューオータニ長岡	増田、亀山
6月29日	自己評価研修会	新潟ユニゾンプラザ	増田
7月6日	高次脳機能障害相談支援研修会	精神保健福祉センター	吉田
7月6・7日	第41回全身協研究大会	高知県文化ホール他	河合、相浦
7月11日	下越地区県身協オセロ交流会	新潟ふれ愛プラザ	亀山、吉田
7月13日	社会福祉会計簿記講座(初級)	新潟ユニゾンプラザ	田村
7月25・26日	危険物取扱試験乙種第4類講習会	新潟市役所	田村
7月25日	第1回新潟市計画相談支援会	燕三条地場産センター	星野、相浦
7月26日	安全運転管理者等講習	西蒲区運転センター	増田
8月20日	高次脳機能障害リハビリ講習会	江南区福祉センター	藤口、高橋(達)
8月23日	社会福祉会計簿記講座(中級)	新潟ユニゾンプラザ	田村
8月25日	県身協職員研修会	ニューオータニ長岡	河合
9月14日	共生のまちづくりフォーラムinおぢや	小千谷市民学習センター	増田
9月21・22日	第38回関ブロ施設職員研究大会	東京ベイ幕張ホール	増田、武石、土田
10月3日	下越地区県身協スポーツ交流会	新潟ふれ愛プラザ	吉田、相浦
10月10日	シンポジウム「これからの地域包括支援」	日報メディアシップ	増田、星野、相浦
10月20日	県身協支援担当課長会議	ニューオータニ長岡	亀山、堤
10月26・27日	キャリアパス対応(中堅職員コース)	新潟ユニゾンプラザ	諸橋

11月4日	「高次脳機能障害」心理療法セミナー	メイワサンピア	藤口
11月13・14日	障害者虐待法・権利擁護研修	新潟県自治会館	星野、五十嵐
11月17日	県身協庶務担当会議	ニューオータニ長岡	田村
11月17日	災害福祉支援チーム研修会	新潟ユニゾンプラザ	増田
11月26日	難病ITコミュニケーション支援講座	西新潟中央病院	星野、河合
11月28日	関ブロ第2回施設長会議	全国社会福祉協議会	増田
12月2・3日	にいがたフォーラム13in長岡	アオーレ長岡	亀山、星野
12月21・22日	県サービス管理責任者研修	新潟ユニゾンプラザ	海津主任
1月18～20日	スーパービジョン研修会	中央福祉学院	増田
1月31～2月1日	地域生活支援推進研究会議	新横浜国際ホテル	亀山
2月2日	障がい福祉事業管理者連絡会	万代シルバーホテル	増田、星野
2月22日・23日	関ブロ第2回総会・第3回施設長会議	ホテル国際21	増田
3月1日	災害福祉広域支援セミナー	新潟ユニゾンプラザ	増田
3月2日	県身協第2回総会施設長・庶務課長会議	ニューオータニ長岡	増田、亀山
3月8～9日	経営セミナー	新霞が関ビル	増田
3月24日	介護プロ養成講座	ハードオフエコスタジアム	藤口、吉田、田川
3月26日	障がい者総合支援法等関係説明会	江南区文化会館	増田

②施設内研修

日付	研修名	講師名	参加人数
6月6日	スタンディングリフト研修	田川サービス管理責任者	10名
6月12日、23日	食中毒研修	五十嵐管理栄養士	12名
7月4日	腰痛予防対策講習	堤係長、大平主任	13名
8月29日	接遇マナー講習	介護福祉士会 岩崎様	14名
9月7日	褥瘡研修	(株)ケーブ小井田様	4名
9月27日	第一回腰痛予防講習	幸田理学療法士	12名
10月23日	第二回腰痛予防講習	幸田理学療法士	13名
11月27日、12月8日	感染症発症予防研修	五十嵐管理栄養士	12名
12月21日	介護技術講習(食事、口腔)	介護福祉士会 3名	3名
1月15日	スライディングシート講習	あおやまメディカル井島様	9名

【反省・課題】

- ・新人研修マニュアルを整備し、より充実した新人研修を行うことができた。
- ・社会福祉協議会が主催する福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅コースへ職員1名が受講した。研修内容が非常に充実していることから、来年度はキャリアパス対応生涯研修に、積極的に職員を派遣できるように計画したい。
- ・引き続き多様化する障害への対応ができるよう、支援技術を磨く研修会に職員を派遣していく。
- ・法人内で連携し介護福祉士会による研修を2度開催した。
- ・内部研修に参加職員が少なかった。

2. 実習生受け入れ

期間	学校名	実習名	人数
8月15日～9月14日	新潟医療福祉大学	相談援助実習	1名
10月23日～11月23日	国際こども福祉カレッジ	相談援助実習	1名
11月6日～	東京未来大学専門学校	社会福祉士実習	1名

□日中活動

1. 日中活動

①趣味的活動

【活動日】 毎月の日中活動予定表に沿って実施

【活動時間】13:45～14:45

【活動場所】各項目に記載

【活動項目】カラオケ、手工芸、書道、調理レク、スポーツレク、映画、マッサージ、散歩など

【反省・課題】

- ・月1回のペースで各活動を行った。利用者の要望に応じて、活動回数を検討したい。
- ・来年度は活動参加の際の移動介助が必要な方の離床、誘導を全職員で協力して行っていく。
- ・スポレク(ボッチャ、カーリンコンなど)のルールを多くの職員で共有し、盛り上げていきたい。

②調理レク

【活動内容】

- ・職員、利用者と共に調理を行い、出来上がったものをおいしく頂く。

実施日	実施内容	参加者
4月10日(月)	マフィン	32名
5月17日(水)	あんみつ	29名
6月23日(金)	プリンアラモード	33名
7月13日(木)	レアチーズケーキ	30名
8月16日(水)	抹茶スワール	30名
9月12日(火)	どら焼き	30名
10月13日(金)	マロンケーキ	30名
11月21日(火)	ふわふわパンケーキ	29名
12月20日(水)	デコレーションケーキ	28名
1月18日(木)	じゃがいも餅&南瓜餅	33名
2月14日(水)	ミルクチョコトリュフ	33名
3月9日(金)	カレーパン	24名

【反省・課題】

おいしく、ボリュームもあり良かったとの感想をいただき、概ね好評であった。利用者にもできることを行ってもらおう事で、調理に参加する機会を提供できた。また、お菓子系が多くなつたので、おかず系のメニューも取り入れてきたい。

2. 外出支援

【活動内容】

- ・利用者の外出希望アンケートをとり、外出の実施を計画した。(日程、メンバー、車両調整)
- ・今年度より外出先を委員会にて決定し、その中から選ぶ形式とした。
- ・マンツーマンの支援ではなく、利用者2名以上での参加とした。

行き先	参加者
マリンピア日本海	5名
ふるさと村	3名
アピタ西	12名
吉田方面	10名
弥彦方面	4名
岩室散策	4名

【反省・課題】

- ・マンツーマンの支援ではなく、2名以上での外出とした事で、少ない日数ですべての支援を終える事が出来たが、利用者の希望にそえない事もあった。
- ・職員も同じ職員が何度も行く事が多くなってしまったので、来年度は、職員の振り分けを行い、職員の負担を軽減していければと思う。
- ・来年度も今年度同様に行う予定だが、なるべく要望にそえるように調整していきたい。

3. ボランティア

ボランティア行事・施設行事の際のボランティアの依頼。

入居者利用の、傾聴ボランティア補助。

個人ボランティアの活動のサポート

実施月	活動内容	ボランティア人数
4月	マンドリン演奏会	2名
5月	お茶会	6名
	運動会ボランティア依頼	4名
6月	音楽・マジックボラ	4名
7月	マンドリン演奏会	2名
9月	劇団まな美座舞踊ショー	10名
	音楽ボランティア	6名
	かたくり祭ボランティア依頼	9名
11月	マンドリン演奏	2名
12月	門松作り	6名
1月	餅つき	4名

【反省・課題】

各ボランティア行事に関して、多くの利用者に参加され好評だった。傾聴ボランティアのサポートに関しても大きな問題なく終わった。にいがたし元気力アップサポーター制度登録し、サポーターからも参

加していただけだったので、来年度も円滑に活動してもらえるようサポートしていきたい。学生のボランティアの参加者も多かったので、行事等の際に多数参加していただけるよう連絡調整等行っていきたい。

4. 行事

①運動会 6月4日(日) かたくりの里食堂

【活動内容】

玉入れ、借り物競争、パン食い競争、利用者職員混合リレーの4種目を利用者は紅白のチームに分かれ、ご家族やボランティアの方々と楽しんだ。

【反省・課題】

- ・事前準備、当日の進行とも、ほぼスムーズに行えた。
- ・人手が足りない部分はあったが職員、ボランティア全員で協力し、進めることが出来てよかった。
- ・チーム分けの際、応援のみの利用者の名前もポスターに貼り出したのだが、一部利用者に誤解を与えてしまった為、掲示する前に一言配慮しておくべきだった。

②かたくり祭 10月15日(日) かたくりの里1階スペース

【内容】

- ・イベント(岩室太鼓、マジックショー)、
- ・他福祉施設による販売・ワークショップ、
- ・飲食類販売

【反省・課題】

- ・イベントや飲食店は、利用者に好評であったが、飲食販売で提供までに時間がかかってしまい、待たせしてしまう場面があった。
- ・近隣施設の参加も増え、定着しつつあるが、まだアピール不足なので、ポスター配布の範囲を増やしていきたい。
- ・少ない職員数の中で、利用者と来場者の対応をすることは難しかったが、事前に詳細な計画を行う事で対応は出来ていた。ただし、細かい点では、まだ改善の必要があるので、来年度以降は、皆が余裕を持って楽しめるように計画していきたい。

③クリスマス会 12月21日(金) かたくりの里日中活動スペース

【活動内容】

- ・職員によるピアノ演奏、ケーキ・プレゼント配布

【反省・課題】

- ・滞り無く終えて良かった。ただ、ケーキの個数でミスがあったので改善していきたい。
- ・ピアノ演奏が利用者に好評だったので次回もお願いしたい。
- ・プレゼントをすべて同じものにしたことで平等に提供できた。

5. 施設外行事

①オセロ交流会 7月11日(火) 新潟ふれ愛プラザ

【活動内容】

平成29年度県身協オセロ交流会に利用者3名が参加した。

【反省・課題】

- ・残念ながら予選敗退となってしまった。
- ・オセロのルールがよく分からない利用者もいるので、事前に練習ができるような環境を整えたい。

・参加希望者が年々少なくなってきたので、参加者の選定が難しくなってきた。ショートステイ利用者も含め、参加者を募っていく。

②スポーツ交流会 10月3日(火) 新潟ふれ愛プラザ

【活動内容】

・平成29年度県身協スポーツ交流会に利用者3名が参加した。

【反省・課題】

・3位に入賞することが出来て良かった。
 ・移動や活動時間が1日中と長く、利用者の体力面で困難となってきた。参加者の選定の際には、利用者の健康状態や体力も考慮していく必要がある。

③共生フォーラム 10月14日(土) 巻地域保健福祉センター

【活動内容】

・事前会議参加(職員のみ)
 ・作品展示の提供と前日、当日の会場準備
 ・当日参加利用者1名、付き添い職員1名、会場手伝い職員2名で対応。
 障害を持つ方のステージイベントや制度の寸劇などの見学。

【反省・課題】

・参加利用者が1名となったが、参加利用者は、毎年楽しみにされているため、今年も参加出来て良かったと話されていた。
 ・作品展示の協力が難しかったが、共生フォーラム用に作品を用意してくれている利用者もおり、展示できて良かった。
 ・地域や他事業所と関われるイベントなので、今後も積極的に参加していきたい。

□情報管理

【活動内容】

	情報管理	広報
4月	新年度業務マニュアルの発行	かたくり通信41号発行
5月		写真掲示・印刷・配布
7月		写真掲示・印刷・配布かたくり通信発行準備
8月		かたくり通信42号発行
9月		写真掲示・印刷・配布
11月		かたくり通信発行準備
12月		かたくり通信43号発行
1月	かたくりの里業務マニュアル更新	
2月	救急隊への情報提供カード作成開始	
3月	かたくりの里業務マニュアル編集	かたくり通信発行準備

※通年

・書類整理・管理、スタッフルームホワイトボード管理、かたくりの里ホームページ管理
 ・行事の際の写真撮影
 ・行事ポスターの作成

※随時

・かたくりの里facebookの更新
 ・すこやか福祉会ホームページの更新

【反省・課題】

- ・年度途中から職員の人員不足や情報管理委員の退職により、全ての活動が昨年度に比べて滞ってしまった。来年度は人員が増えることに加え、毎月第4月曜日に定例の活動を行うことで、活動が円滑に行えるよう取り組んでいきたい。
- ・広報誌に関しては、やや発行が遅れてしまうことはあったものの、欠刊なく発行することができた。
- ・来年度は情報の更新だけでなく、より周知しやすい環境作りも行っていきたい。

□業務検討会

【活動内容】

平成29年度中期方針に基づき、第三者評価基準・ケアガイドラインから、かたくりの里が取り組まなければならない事、施設としてあるべき姿の想定、サービスの向上、業務の効率化等の課題や、運営項目における課題を抽出し、改善点として提案した。課題やテーマの提案や改善は、業務検討会において、PDCAサイクルを意識して改善計画、実施計画・実行・評価・改善、是正処置を実施した。

1. 第三者評価・ケアガイドラインの活用について

各係・委員会で分担し、評価チェックを実施した。分担することで、スムーズに課題抽出を行うことができ、抽出された課題についても各担当毎にPDCAサイクルを活用し、課題解決へ向けての取り組みを活発に行った。

2. PDCAサイクル様式を利用した書式の活用について

ケアガイドラインより抽出された課題についてPDCAサイクルを利用し、以下の課題について解決へ向けての取り組みを行った。

- ・ボランティアや実習生受け入れ時の事故への対応策
- ・短期入所利用時の体調不良者への対応について
- ・緊急時の情報提供カードについて
- ・基本理念や倫理、行動規範を全職員が理解できるようになるために

3. 検討課題

- ・タイマーの活用について
- ・買い物代行支援(イオン利用)について
- ・新規利用室について
- ・おしぼりについて
- ・療護浴室の特浴変更について
- ・廊下カーブミラーの設置について
- ・魅力ある施設作りに関して
- ・トイレトペーパーの業者変更について
- ・「虐待や不適切な支援を発見した際の流れ」について
- ・ケアガイドラインについて
- ・夕食の流れ、食席の変更について
- ・便漏れの解消について
- ・戸締りチェック表について
- ・入浴時間について

・スーパービジョン体制について

4. 施設と利用者の話し合い

【活動内容】

- ・毎月第4週に「利用者と施設の話し合い」を実施。
- ・実施する為の準備・段取り、司会。
- ・月間予定表の貼り出し。

【内容】

実施日	参加数	内容
4月27日(木)	31名	おしぼり廃止や買い物代行について、外出支援について
5月25日(木)	28名	お茶会について、利用者からの要望・意見。
6月22日(木)	27名	買い物サービス、耳掃除について、オセロ大会について
7月27日(水)	31名	新規入所者紹介、施設整備、スポーツ交流会について
8月24日(金)	29名	空調設備について、かたくり祭、共生フォーラムなど
9月28日(木)	33名	実習生について、施設設備について、利用者からの質問。
10月26日(木)	28名	職員の動向、施設設備、権利擁護の取り組みについて
11月24日(金)	27名	換気について、食事時のお願い、クリスマス会について
12月27日(水)	28名	職員の動向、空調設備、餅つき会、利用者からの要望。
1月25日(木)	31名	職員動向、新規入所者、豆まき、鍋、衣料品販売について
2月28日(水)	25名	職員の動向、新規入所者紹介、外出支援について
3月24日(金)	29名	職員、利用者の動向、施設設備について、

【反省・課題】

- ・今年度は、各委員会・係の担当する分野に分け、ケアガイドラインのチェックを行った事で、課題解決に向けてスムーズに検討することができ、PDCAサイクルに沿って検討を行う事ができた。しかし、途中でサイクルが止まってしまったり、解決した課題に関して、再検討できなかつたりといった課題もあった。PDCAサイクルを意識した取り組みを始める事が出来たので、今後は、課題解決へ向けた取り組みの道筋を立てる役割を担えるように、体制を整えて行きたい。
- ・福祉サービス第三者評価基準を活用した自己評価についても、業務検討会を中心に計画、実施していきたい。

6 外部行事参加状況

■下越地区県身協オセロ交流会

平成29年7月11日(火) 新潟ふれ愛プラザ(新潟県障害者交流センター)

<参加者> 3名(1チーム)

<結果> 予選敗退

■下越地区県身協スポーツ交流会(ポッチャ)

平成29年10月3日(火) 新潟ふれ愛プラザ(新潟県障害者交流センター)

<参加者> 3名(1チーム)

<結果> 3位入賞

■たすけあい・ささえあい・共生フォーラムin西蒲

平成29年10月14日(土) 巻地域保健福祉センター

<参加者> 1名

7 補助金・助成金 事業報告

■平成29年度社会福祉基金運用益活用事業助成事業	60,000円
■職場定着支援助成金(介護福祉機器等助成)	165,000円
■平成29年度結核予防費補助金	18,144円